

(別記)

## 尾張旭市地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

### 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本地域における基幹作目は、水稻を主体に果樹（いちじく）、露地野菜があり、何れも規模零細な家族経営である。担い手への農地集積は進んでいるが、一方で農業従事者の高齢化や、不作付地の拡大、宅地化等により水稻作付面積の維持が課題となっている。

### 2 作物ごとの取組方針

#### (1) 主食用米

良質な米づくりを目指して適地適作を基本に銘柄産地の育成と、土づくり、適切な栽培管理、適期収穫、適切な乾燥調製を図る。また、地域ぐるみの農地の利用集積を図るなどにより、高性能農業機械、基幹施設の効率的利用により生産コストの低減を図る。

#### (2) 非主食用米

##### ア 飼料用米

主食用米の需要減が見込まれる中、飼料用米を転作作物に位置づける。産地交付金の産地戦略枠を活用し、地域の栽培指針に準じた施肥管理、適切な除草剤施用、土壌改良資材の施用等品質向上の取組みを推進する。また、生産性の向上や品質向上、収量増加を目的として、疎植栽培、肥料の低減化、GAPの導入、新たな品種の導入を行う。水田作付面積が減少傾向にある中で30年度には5.7haの生産を目指す。

##### イ 米粉用米

地域の栽培指針に準じた施肥管理、適切な除草剤施用、土壌改良資材の施用等品質向上の取組みを推進する。

#### (3) 野菜

米の生産調整等により、水稻からの転作を図っているが総体的には減少している。このため、限られた優良農地のなかで地域の実情に即した野菜の生産振興を図るため、プチヴェールなどの特産品の増産、栽培技術の改善を推進し野菜生産の安定を図る。

#### (4) その他地域振興作物

##### ア 景観作物

貴重な農地を保全、有効活用するため、現行の面積を維持していくものとする。

##### イ 果樹（いちじく）

現在は稲葉地区の約1haで栽培されているが、短期間で生産の改善や果実需給の調整を図ることは困難である。生産の誘導と需要動向に促した高品質果実の生産を図り、優良品種の導入、担い手農家の育成と経営の合理化などを推進する。

### 3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 25 年度の作付面積 (ha)	平成 28 年度の作付予定面積 (ha)	平成 30 年度の目標作付面積 (ha)
主食用米	57	56	56
飼料用米	5.0	5.5	5.7
米粉用米	-	0.2	0.3
WCS 用稲	-	-	-
加工用米	-	-	-
備蓄米	-	-	-
麦	-	-	-
大豆	1	1	1
飼料作物	-	-	-
そば	-	-	-
なたね	-	-	-
その他地域振興作物	1.5	1.5	1.5
野菜	0.1	0.1	0.1
果樹	1	1	1
景観作物	0.4	0.4	0.4

### 4 平成 28 年度に向けた取組及び目標

取組 番号	対象作物	取組	分類 ※	指標	平成 25 年度 (現状値)	平成 28 年度 (目標値)	28 年度の 支援の有無
1	飼料用米	施肥管理、適正な 除草剤施用、畦畔 除草によるカメム シ防除、土壌改良 資材の施用	ア	実施面積	5.0ha	5.5ha	有
2	飼料用米	疎植栽培、肥料の 低減化	イ	実施面積	-	0.45ha	有

※「分類」欄については、実施要綱別紙 16 の 2 (5) のア、イ、ウのいずれに該当するか記入してください。(複数該当する場合には、ア、イ、ウのうち主たる取組に該当するものをいずれか 1 つ記入してください。)

- ア 農業・農村の所得増加につながる作物生産の取組
- イ 生産性向上等、低コスト化に取り組む作物生産の取組
- ウ 地域特産品など、ニーズの高い製品の産地化を図るための取組を行いながら付加価値の高い作物を生産する取組

※現状値及び目標値が単収、数量など面積以外の場合、( ) 内に、数値を設定する根拠となった面積を記載してください。

※畑地の面積は含めないこと。

※28 年度の支援の有無の欄は、産地交付金による助成を行う取組は「有」を、助成を行わない取組は「無」を記載する。

### 5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり